

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

したたかに立ち回る非製造業

- 1, 米トランプ大統領がもたらした混乱を追い風にしようとする業界もある。代表格はエネルギーに物流、そして金融だ。変化はチャンスを生む。6月12日、日本火力発電最大手のJERAは2030年頃をめどに米国から年間最大550万トンもの液化天然ガス（LNG）を調達すると発表した。天然ガスは貿易赤字の解消を狙うトランプ政権にとり重要な戦略物資の一つである。輸出拡大を渴望するトランプ氏に食い込んだのがJERAだ。
- 2, 関税ショックを受けて、中国から東南アジアへ生産拠点を移す動きが進む。同じ米国への輸出でも、出発地点を変えることでコストを抑える狙いだ。物流企業にとって、新たな顧客を捉える商機となる。さらに米国以外でモノの動きが活発化すれば、引き合いも増える。
- 3, 三菱UFJFGは4月の時点で、「実質GDP成長率は米国で2%近くに落ち込み、日本も輸出や設備投資の減速で0.3%程度の下押し圧力が発生する。為替は27年3月に1ドル130円台半ばまで円高が進んでいる」とのシナリオを描く。マクロな環境は楽観できないが、それでも業績予想は強気を貫く。

(参考:「日経ビジネス」2025年7月21日号)

経営者のための理念・哲学

私どもは仏心の中に生まれ、生き、息を引き取る 横田南嶺（臨済宗円覚寺派管長）

1. 禅僧たちは何を悟ったのであろうか。朝比奈宗源老師は、その著『仏心』（春秋社）の中で、こう説かれている。「どう悟られたかという、つねにお互いがたよりにし、お互いの生活の根底としている、意識そのものに実体はなく、その意識のつきたところに、永遠に変わらない、始めもなく終わりもなく、つねに浄（きよ）らかに、つねに安らかに、つねに静かな光明にみたまわっている仏心があるということを悟られたのであります」と説かれている。
2. 朝比奈老師は「仏心はこうした絶対なもので、私どもは、仏心の中に生まれ、仏心に中生き、仏心の中に息を引きとるのでありまして、仏心からはずれて生きること、仏心のほかに出ることもできないのであります。たとえば、私どもは仏心という広い心の海に浮かぶ泡のようなもので、私どもが生まれたからといって仏心の海水が一滴増えるのでも、死んだからといって、仏心の海水が一滴減るのでもないのです」と分かりやすく説かれている。

(参考:「致知」2025年9月号)

ワンポイント経営アドバイス

転換期の東南アジア経済 田村優衣（みずほ銀行主任エコノミスト）

1. 東南アジアは、生産拠点の中国から移転先ということでかなり恩恵を受けている。ベトナムでは輸出の7割が外資系企業による製品で、新たな輸出拠点として存在感が出てきた。仮に高率な関税をかけられても、繊維製品や機械系部品は米国で製造するよりも安価で価格競争力があるため、製造拠点の地位がなくなるとはみられていない。
2. とはいえ、タイが人口減少局面に入り、ベトナムも少子高齢化が進み始めて生産年齢人口のピークがきた。ASEANの労働供給の優位性は減退し、インドへのシフトが中長期的に強まるだろう。人口がまだ増えるインドネシアやフィリピンは内需がさらに拡大する。ASEANの成長牽引役が従来のタイから代わるだろう。日系企業は意志決定が遅い、新規投資が停滞している、と現地で指摘されている。日本にとって正念場だ。

(参考:「週刊東洋経済」2025年7月12日号)

古典に学ぶ

早く真理に気づきなさい

1. 私たちの肉体は泡のようにもろく、また、人生の行く末は夢幻（ゆめまぼろし）のようにはかないものだ、と空海はいいます。
2. しかし空海は、そんな世を嘆けといっているわけではありません。「夢や幻のような人生を生きていくのだから、早く真理に気づきなさい」と諭しています。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)